

大学入試改革はどう進む? そのとき塾はどうする?



大学入試改革への対策とスケジュール 塾に必要なのは、 本質を見失わない対応

「共通テスト」は2020年度から先行実施
本格実施は2024年度から

「共通テスト」は、2020年度から実施されることが決まっています。

「共通テスト」の実施方法などについての詳細が発表されるのは2019年度初頭です。また、実施までの間に合計3回のプレテストが予定されており、2020年度から問題なく実施するための確認作業が続きます。

ただ、2017年3月に公示された次期学習指導要領に基づいて教科書が改訂され、授業が始まるのは、小学校は2020年度、中学校は2021年度、高校は2022年度です(高校は2022年度の高1生から学年ごとに)。

大学入試改革の考え方は次期学習指導要領の考え方と合致したものですが、2023年度の受験生までは現行の学習指導要領に基づいた学習を行ってきます。その生徒たちに、大学入試だけを急に切り替えたのでは齟齬が生じるおそれもあります。

また、「共通テスト」が当初想定していた教科・科目の学習や必履修の扱いが、高校で次期学習指導要領に基づいた学習の始まる2022年度以降(一部は2019年度の移行措置からの可能性あり)となるため、本格実施開始は2024年度からとし、それまでの4年間は、いわば先行実施期間という位置づけになりました。

なお、小学校での英語については、2020年度の次期学習指導要領に基づいた授業への切り替えを待たずにスタートすることになっています。

保護者の英語教育の必要性に対する意識が依然として高いことに加え、小学校でもその本格的な学習が始まることによって、英語に関する学校外での補習の必要性も高まるものと考えられます。

変化の時期だからこそ 基礎的な「知識・技能」の指導が重要

文部科学省をはじめ関係諸機関は、大学入試改革にまつわるこれらの期間も混乱が生じないよう十分な配慮と対応をとるはずです。

しかし、こういった大きな変革の時期には、生徒や保護者は不安になったり、混乱したりしやすいものです。

また、変化への意識が高ければ高いほど、「どんな対策をとったらいいのかがわからない」と困惑してしまうことも考えられます。

従ってこのような時期に塾は、

- ・正確な情報を入手し、きめ細かく発信する
- ・新しい仕組みへの対応を準備しつつ、その土台となる基礎的な「知識・技能」の習得がより確実になるよう指導する

——ことが必要になってきます。

特に、「制度が新しくなる」と聞くと「今までの学習方法はだめだ」と、目新しい学習方法に飛びつきがちですが、基礎的な「知識・技能」を確実に習得することの重要性は、どんな時代にも変わりません。むしろ、今回の改革に当たっては、その重要性がさらに増したと捉えるべきでしょう。

「思考力・判断力・表現力」を磨くプログラムの準備も必要ですが、基礎的な「知識・技能」の重要性を

改めて生徒や保護者に伝え、確実に習得させる手立てを講じることも、大変化の時代の塾には必要です。

大学入試改革への対策とスケジュール 新制度への対応は、 学年ごとに違う

P.28の表は、「共通テスト」の本格実施開始までの主なスケジュールと、各年度の学年がその年度に学習するのが現行の学習指導要領に基づいたものか、次期学習指導要領に基づいたものか、移行措置期間にあたるのか、さらに、高3時に受けるのがセンター試験なのか、「共通テスト」の先行実施期間なのか、本格実施開始後なのかをまとめたものです。

各学年ごとの特長と注意点をまとめてみましょう。

2017年度の高1生

センター試験を受ける最後の学年です。センター試験対策については従来通りですが、万が一受験に失敗すると、翌年「共通テスト」を受けなければなりません。センター試験と「共通テスト」とでは、学習の重点や取り組み方、準備のしかたも違ってきますので、かなり不利な状況に追い込まれてしまいます。

この学年は、万が一を想定した志望校選びや注意深い受験計画と、「絶対に浪人しない」という覚悟が必要です。

2017年度の中3生

「共通テスト」初年度の学年です。必要な情報は事前に発表されるはずですが、どうしても手探り状態で準備を進めなくてはならない部分も出てくるでしょう。例えば過去問が存在しない状況で、受験指導にどう対応するのか。塾にとっては頭の痛い問題です。

条件は受験生全員が同じですが、それだけに受験生や保護者の不安も大きくなりやすいもの。こまめな情報提供が欠かせません。

2017年度の中2生

「共通テスト」は2年目で、十分な対策とはいえないまでも、類題などの対応は可能になってくるでしょ

う。情報収集と発信を続けることはもちろん、前年度の出題をもとに、塾内の集中ゼミや直前対策講座など、ピンポイントでの対応を一考してもよいでしょう。

2017年度の中1生

「共通テスト」も3年目となり、対策のための様々なノウハウも蓄積されてくる頃。それを知っているかどうかで結果に影響が出ることもあるので、情報収集が欠かせません。

また、制度としての不具合の修正も毎年行われるはず。3年目だからといって油断せず、細部まで確認しておく必要があります。

2017年度の小6生

現役のときに「共通テスト」先行実施期間での受験をする最後の学年です。2017年度の高1生と同様、現役時に失敗すると、本格実施に切り替わる翌年、大きく不利になります。

先行実施期間も本格実施開始後も共に「共通テスト」なので、救済措置はほとんどないことが予想されます。現役のうちに必ず合格できるよう、十分な準備と対策が必要です。

また、中学、高校の6年間が学習指導要領の移行措置期間にあたります。学び漏れがないよう考慮されているはずですが、わかりにくい部分が生じるおそれは残ります。塾でのフォローは必須でしょう。

2017年度の小5生

「共通テスト」本格実施開始後最初の受験となる学年です。現時点での見通しでは、先行実施から本格実施への切り替えによる変化は、かなり大きなものになる可能性があります。情報収集と、短い時間での対策が必要です。

学習指導要領については、中1、2は移行措置期間ですが、中3では次期学習指導要領に完全に切り替わります。この部分でのギャップに生徒たちが戸惑い、苦手意識が生じるおそれもあります。高校入試目前の時期ですので、早め早めのフォローが必要でしょう。

また、小学英語を始めとする移行措置期間中の学び残しがないよう、各学年の段階でしっかりと生徒の状況を把握しておきたいところです。

2017年度の小4生

中学のうち2年間を次期学習指導要領で学習する学年です。高校入試も完全に次期学習指導要領に対応するはずですので、中1、中2のうちから、それを見越した対策が必要でしょう。

「共通テスト」は本格実施の2年目ですが、1年目で見つかった不具合の修正などが行われることも考えられます。きめ細かい情報収集と対応が欠かせません。

2017年度の小3生以下

中学、高校の学習内容全てを次期学習指導要領で学びます。この学年が高校を受験する頃には、高校入試も大きく様変わりしているはずです。また、社会状況も現在とはかなり違ってきてているでしょう。

このようにさまざまな「変化」が起きているであろうことは確実ですが、変化の度合いと速さが大きいため、「どう変化するか」の予測は難しくなります。

どんな変化が起きても対応できるよう、ベースとなる「知識・技能」を確実に習得させ、その上で、「思考力・判断力・表現力」を磨くための対策や、他者との協働に結びつくコミュニケーション能力を高めるための取り組みを、早い時期から行っておくことが必要でしょう。



今後のスケジュールと対応

- 「共通テスト」は、2019年度初頭に詳細が決定。2020年度から先行実施、2024年度から本格実施。
- 改革の進行期間中の対応は、学年によつて異なる。塾はきめ細かな取り組みを。
- 基礎的な「知識・技能」の重要性がさらに高まることを塾が発信することが大切。

大学入試改革と次期学習指導要領実施スケジュール

年度・学年	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
新テスト	基礎診断 共通テスト フレテスト実施	共通テスト フレテスト実施		現センター廃止 共通テスト 先行実施				共通テスト 本格実施
次期学習 指導要領		小学移行措置(英語等)	小学 次期学習指導要領 全面実施	中学移行措置(英語等)	中学 次期学習指導要領 全面実施		高1 次期学習指導要領 全面実施	
中3	中3	高1	高2	高3			高2 全面実施	高3 全面実施
中2		中3	高1	高2	高3			
中1			中3	高1	高2	高3		
小6				中3	高1	高2	高3	
小5		小6 《小学移行措置》<>	中1	中2	中3	高1	高2	高3 ★
小4		小5 《小学移行措置(英語等)》	小6 《小学移行措置(英語等)》	中1 《中学移行措置(英語等)》	中2	中3	高1	高2

↔ 基礎診断 3科目(国語総合・数学I・コミュ英語I)
学力調査テスト高校版の位置づけ

↔ 基礎診断 次期学習指導要領対応(必修科目5科予定)
AO入試・推薦入試への活用の可能性あり

↔ 共通テスト ペーパー式で記述式(国数)とマーク式、
現行センターと同じ1月実施

★ 共通テスト 本格導入(CBT-I RT)